大学入試研究ジャーナル第 32 号，165-172，2022

COVID-19 禍における高校生の進学希望の変化に与える オンラインオープンキャンパスの効果研究

三好 登（広島大学）

大学が学生募集・入試広報に取り組むことが，18 歳人口の減少に伴い，ますます重要な課題となっている。大学の学生募集・入試広報とし，オープンキャンパス，大学説明会や，模擬授業があるが，COVID-19 が発生し，現在ではオンラインで実施している。

本研究では，H 大学を事例として COVID-19 禍における高校生の進学希望の変化に，オンラインオープンキャンパスを通じて，「全学関連情報」「学部関連情報」がいかに影響を及ぼしているのか，検証する。分析結果から，COVID-19 前は学部関連情報を十分に享受し得たときに高校生の進学希望が変化していた一方で，COVID-19 禍ではこれに全学関連情報も影響を与えていることがわかった。

キーワード：COVID-19，高校生，進学希望，オンラインオープンキャンパス

1 研究背景と目的

大学が学生募集・入試広報に取り組むことが，ますます重要な課題となっている。その理由として，18 歳人口の減少に伴うものがあげられる。1990 年代初め，約 200 万人いた 18 歳人口が，現在では約 110 万人にまで減少し，今後もさらに減っていくことが見込まれている [1)]。このような 18 歳人口の減少に伴って大学で学生募集・入試広報に取り組むことは一層重要な課題となっており，その方法として，オープンキャンパス，大学説明会や，模擬授業（出前授業）があるが，本研究ではその一つであるオープンキャンパスの効果に焦点を当てて検討する。2020 年の COVID-19 発生以前，オープンキャンパスも含めた学生募集・入試広報は対面で実施されていたが，COVID-19 が発生して以降，第一回緊急事態宣言下において，4 月 16 日からすべての日本の大学に休業協力要請が行われ，その結果として，これらの学生募集・入試広報に関しても従来の対面型からオンライン型へと見直しの必要性に迫られたという経緯がある。本研究で焦点を当てて検討するオープンキャンパスでは一般に，教育内容，就職状況，入試方法・内容，クラブ・サークル活動の状況，奨学金，アルバイト，学生生活，住居・住宅情報や，取得できる資格にかかわる情報発信が行われてきた [2)]。そして三好ら（2019）の研究では，その情報の種類により，クラブ・サークル活動の状況，奨学金，アルバイト，学生生活や，住居・住宅情報を「全学関連情報」，また教育内容，就職状況，入試方法・内容や，取得できる資格の情報を「学部関連情報」に分類している。だが COVID-19 禍でオンラインオープンキャンパスとなっても，これら「全学関連情報」「学部関連情報」は適切に発信され，オンラインオープンキャンパスへの参加を通じて大学に進学する高校生の気持ちに影響を与えているのだろうか。

本研究では，地方にある国立総合研究大学の H 大学 [3)] を事例として COVID-19 前のデータと比較しながら，COVID-19 禍における高校生の進学希望の変化に，オンラインオープンキャンパスを通じて，「全学関連情報」「学部関連情報」がいかに影響を及ぼしているのか，検証を試みることを目的とする。

本研究において COVID-19 前と COVID-19 禍におけるデータを比較検証することを通じ，2021 年度以降も当面，オンラインでのオープンキャンパスとなる可能性が高いが，オンラインオープンキャンパスでどのようなコンテンツを設定・発信することがより効率的であるのか，ということを示唆することができる。

2 先行研究・課題の設定と研究方法

2.1 先行研究

高校生の進学希望の変化に与える学生募集・入試広報の効果に関わる研究は数多い。大学による学生募集・入試広報が，高校生の志望順位の形成にいかなる影響を与えているのか研究を実施した平尾ら（2011）は，特にオープンキャンパスは，ほかの要因よりもはるかに強い影響力を持っていることを明らかにしている。また受験校決定理由の特徴を分析した吉村（2013）によれば，オープンキャンパス参加の選択率が，推薦入学者で多くなっていることや，鈴木ら（2003）の研究では AO 入試入学者でも多いことが解明されている。さらに雨森（2016）によると，オープンキャンパス参加者は推薦入試入学者の合格上

表 1 オンラインオープンキャンパスにおいて Web 調査を実施した項目

あなた自身のこと	
性別	あなたの性別はどれですか（1. 男性、2. 女性）
学年	あなたの現在の学年はどれですか（1. 高校1年生、2. 高校2年生、3. 高校3年生）
志望順位	オンラインオープンキャンパス参加後の今、本学への進学を希望していますか（1. 第一志望である、2. 第二志望以下である、3. 受験を全く考えていない）
出身県	あなたが通っている高校の所在地都道府県はどれですか（1. 広島県、2. 岡山県、3. 山口県、4. 島根県、5. 鳥取県、6. 東京都、7. 大阪府、8. 福岡県、9. 神奈川県、10. それ以外の都道府県）※表3-1と3-2では広島県を「広島県ダミー」、岡山県・山口県・島根県・鳥取県を「広島県以外中国地方ダミー」、それ以外を「それ以外の都道府県ダミー」とコーディングして分析している
オンラインオープンキャンパスのこと	
進学希望の変化	オンラインオープンキャンパスに参加して本学への進学を希望する気持ちはどの程度変わりましたか（1. 志望の気持ちが弱くなった、2. 変わらない、3. 志望の気持ちが強くなった）
学部関連情報・全学関連情報	オンラインオープンキャンパスに参加して知り得たかった情報は得られましたか（教育内容、就職状況、入試方法・内容や、取得できる資格の情報、クラブ・サークル活動の状況、奨学金、アルバイト、学生生活や、住居・住宅情報についてそれぞれ、「1. 全く得られなかった」～「4. とても得られた」で回答）

位層で多くなっており，高校の先生からの情報で合格中位層，大学のホームページ・大学案内で合格下位層がそれぞれ多くなっていることが明らかにされている。またそのオープンキャンパスでどのような種類の情報発信を行うことが望ましいのか検証した三好ら（2019）の研究では，「学部関連情報」を十分享受し得たときに進学希望の気持ちの変化が生じることを解明している。さらにこれら多くの学生募集・入試広報が，アドミッションセンターや，学部教員によって実施されているが，在学生による入試広報の効果という視点より研究を行った永田（2011）によって，大学説明会での在学生による高校時代や，大学生活などの話しが影響を与えていることがわかっている。そしてこれら学生募集・入試広報では，大学紹介スライドに基づいて口頭で説明する場合が多いが，特に理学系では口頭で説明する以上に，実験講義のほうが，影響があることも解明されている（池田ら，2013）。

2.2 課題の設定

これまでの高校生の進学希望の変化に与える学生募集・入試広報の効果に関わる研究は，いずれも対面で実施することができた COVID-19 前のものである。すなわち，COVID-19 前のオープンキャンパスでは，個々人や，高校の団体バスで来学し，全学主催の学長講演，個別相談や，学内施設見学などに参加し，関心のある学部主催の学部長挨拶・学科およびコース紹介や，模擬授業などに参加することができたため，より大学や，学部に関連する情報が伝わりやすい環境下にあったと考えられる。三好ら（2019）の研究は，そのような中で「学部関連情報」を十分に得られたときに進学希望の変化が生じることを明らかにしたものであったが，COVID-19 禍におけるオンラインオープンキャンパスでの効果を検証したものではない。

COVID-19 禍では大学が行う学生募集・入試広報のいずれについてもオンラインとなり，オンサイトで高校生と向かい合って情報発信していた COVID-19 前と比較し，より一層の工夫をして幅広い情報をオンラインオープンキャンパスで伝えていくことが重要であると考えられる。そこで本研究では，『COVID-19 禍のオンラインオープンキャンパスでは，「全学関連情報」「学部関連情報」を享受し得たときに高校生の進学希望の変化が生じる』，という仮説を検証する。

2.3 研究方法

本研究では，H 大学を事例に，COVID-19 前の 2019 年にオープンキャンパスに参加した高校 1 年～

3 年の 39,236 名，また COVID-19 禍の 2020 年にオンラインオープンキャンパスに参加した高校 1 年～3 年の 18,861 名を対象に，参加時にそれぞれ Web 調査を実施し，2019 年：14,921 名・2020 年：6,276 名（以下，同様の順序で記載）から有効回答を得た（回収率：38%・33.2%）。学部系統別による内訳は，教養系 1,321 名・525 名，人文科学系 1,567 名・698 名，社会科学系 1,421 名・613 名，教育系 925 名・456 名，理学系 2,498 名・1,789 名，工学系 2,567 名・798 名，保健系 4,622 名・1,397 名である。

Web 調査で調査を実施した項目としては，2019 年のオープンキャンパスと，2020 年のオンラインオープンキャンパスで比較可能となるようにあらかじめ設計し，1）あなた自身やご家庭のこと，2）（オンライン）オープンキャンパスのこと，3）高校卒業後の進路のこと，についてそれぞれ尋ねた。詳しくは表 1 の通りである。調査終了後，SPSS を用いて分析した。

3 分析結果と考察

本節では，H 大学を事例に，COVID-19 前と COVID-19 禍における（オンライン）オープンキャンパスを通じた進学希望の変化について，全学・学部系統別に，3.1 で性別，3.2 で学年，3.3 で志望順位，3.4 で出身県，そして 3.5 で学部関連情報・全学関連情報との関係をそれぞれ分析する。その上で，3.6 で進学希望の変化に与える（オンライン）オープンキャンパスの効果について検証を行うこととする。

3.1 性別

まず性別と進学希望の変化との関係についてみると，COVID-19 前は「志望の気持ちが強くなった（男性：51%・3,776 名，女性：51%・3,821 名）」，「変わらない（39%・2,921 名，40%・2,999 名）」，「志望の気持ちが弱くなった（10%・700 名，9%・704 名）」と，男女を通じて，オープンキャンパスは志望の気持ちを肯定的なものへと変化させる効果を持っていることがわかった。その一方で，COVID-19 禍では「志望の気持ちが強くなった（73%・2,192 名，70%・2,282 名）」，「変わらない（21%・623 名，22%・721 名）」，「志望の気持ちが弱くなった（6%・200 名，8%・258 名）」と，COVID-19 前と比べて男女ともに，オンラインオープンキャンパスによって志望の気持ちがより一層肯定的なものへと変化していることが明らかとなった。これを学部系統別にみると男女に共通して，とりわけ保健系の COVID-19 禍において「志望の気持ちが強くなった」と肯定的な回答が多くなっていることがわかった。

3.2 学年

次に学年と進学希望の変化との関連性についてみると，COVID-19 前は「志望の気持ちが強くなった（高校 1 年生：61%・5,000 名，高校 2 年生：63%・5,231 名，高校 3 年生：83%・2,091 名）」，「変わらない（29%・2,246 名，28%・2,341 名，13%・321 名）」，「志望の気持ちが弱くなった（10%・733 名，9%・721 名，4%・113 名）」となっており，学年が上がるにつれ，オープンキャンパスを通じて志望の気持ちが肯定的なものへと変化することが解明された。これに対して，COVID-19 禍では「志望の気持ちが強くなった（65%・1,356 名，65%・1,388 名，66%・1,412 名）」，「変わらない（34%・701 名，33%・714 名，33%・723 名）」，「志望の気持ちが弱くなった（1%・23 名，2%・39 名，1%・20 名）」というように，COVID-19 前と比較し，学年による違いがみられなくなることが明らかとなった。COVID-19 前，高校 1 年生や，2 年生は学校行事の一環としてオープンキャンパスへ参加する者が多かったが，基本的に高校 3 年生は自発的な参加となっていた。したがって，このことが進学希望の変化を巡って違いとなって表れたものと考えられる。また COVID-19 禍では，オンラインオープンキャンパスとなり，どこからでも誰でも都合の良い時間にオンラインのコンテンツを気軽にみられるようになった。その結果として，コロナ前と比べて，学年による違いがみられなくなったものと考えられる。

これを学部系統別にみると特に，人文科学系で COVID-19 前に「志望の気持ちが強くなった」と，学年が上がるにつれて肯定的な回答が多くなっている一方で，すべての学部の COVID-19 禍においてその傾向はみられなくなっていることがわかった。

その上で学年と進学希望の変化に関して分散分析・多重比較を行い，それらの分析結果より，COVID-19 前は学年の効果は有意であることがわかった（$F(3,4)=7.23$, $p<0.01$）。Tukey を用いた多重比較によれば，「高校 3 年生」と「高校 1 年生」，「高校 2 年生」との間にそれぞれ有意差があることが明らかとなった。これに対して，COVID-19 禍では学年の効果は有意ではなかった（$F(3,4)=7.33$, n.s.）。また COVID-19 前の人文科学系で学年の効果は有意であり（$F(3,4)=7.56$, $p<0.01$），「高校 3 年生」と「高校 1 年生」，「高校 2 年生」との間にそれぞれ有意な差があることがわかったが，COVID-19 禍ではすべ

ての学部で学年の有意な効果はみられないことがわかった。

3.3 志望順位

また志望順位と進学希望の変化との関係をみると，COVID-19 前は「志望の気持ちが強くなった（第一志望：81%・9,006 名，第二志望以下：18%・542 名，受験を全く考えていない：1%・32 名）」，「変わらない（17%・1,896 名，74%・2,211 名，71%・567 名）」，「志望の気持ちが弱くなった（2%・234 名，8%・233 名，28%・200 名）」というように，当初から第一志望であった者は，オープンキャンパスを通じて，よりその志望の気持ちを強固なものとしていたのに対して，第二志望以下および，受験を全く考えていない者は変わっていないことがわかった。しかし COVID-19 禍では，オンラインオープンキャンパスに自発的な参加となったことに伴い，「志望の気持ちが強くなった（80%・2,264 名，81%・1,521 名，85%・1,341 名）」，「変わらない（19%・543 名，17%・324 名，13%・213 名）」，「志望の気持ちが弱くなった（1%・20 名，2%・23 名，2%・27 名）」というように，志望順位を問わず，志望の気持ちが肯定的なものとなっていることがわかる。

学部系統別にみるととりわけ，人文科学系で COVID-19 前に「志望の気持ちが強くなった」と，第一志望であるほど肯定的な回答が多くなっている一方で，すべての学部を通じて COVID-19 禍においてはその傾向はみられなくなっていることが確認できた。

志望順位と進学希望の変化について分散分析・多重比較を実施し，分析結果から，COVID-19 前は志望順位が有意であることが明らかになった（$F(5,6)=8{,}99$，$p<0.01$）。Tukey 法を用いた多重比較によると，「第一志望」と「第二志望以下」，「受験を全く考えていない」との間に有意差があることがわかった。これに対して，COVID-19 禍では志望順位は有意ではなかった（$F(5,6)=8.91$，n.s.）。また COVID-19 前の人文科学系で志望順位の有意な効果が認められたが（$F(5,6)=9.21$，$p<0.01$），COVID-19 禍ではいずれの学部においても有意な影響はみられないことが明らかとなった。

3.4 出身県

そして出身県と進学希望の変化との関連についてみると，COVID-19 前は「志望の気持ちが強くなった（上位 5 県を示す；広島県：42%・6,299 名，岡山県：21%・3,099 名，山口県：14%・2,087 名，福岡県：4%・562 名，島根県：3%・432 名）となっており，広島県や中国地方の高校生において，オープンキャンパスを通じ，志望の気持ちが肯定的なものとなっていることが確認できる。その一方で COVID-19 禍では「志望の気持ちが強くなった（大阪府 14%・872 名，東京都 14%・891 名，神奈川県 14%・899 名，福岡県 13%・821 名，広島県：9%・582 名）となっているように，COVID-19 前と比較して，関東圏や関西圏を主としたそれ以外の幅広い都道府県の高校生において，オンラインオープンキャンパスを通じ，志望の気持ちがより明確化されていることが明らかとなった。COVID-19 前のオープンキャンパスでは，現地開催であったことから遠隔地よりの参加が難しかったが，COVID-19 禍のオンラインオープンキャンパスにおいては，どこからでも参加することが可能となったことが，より広範囲の地域の高校生の志望の気持ちを変化させることにつながったものと考えられる。もっと言えば，高校生の進学希望に変化を与えるため，大学が入試広報のツールの一つとして，COVID-19 後においてもオンラインオープンキャンパスの導入を検討すべきことを示唆している。

これを学部系統別にみると，すべての学部で COVID-19 前は「志望の気持ちが強くなった」と，全学と同様の傾向で肯定的な回答が多いのに対して，COVID-19 禍では全学と同じくより広い地域の高校生においてその傾向がみられることがわかった。

その上で出身県と進学希望の変化に関して分散分析・多重比較を行い，その分析結果より，COVID-19 前，COVID-19 禍を通じて出身県の効果は有意であることが確認できた（$F(48,49)=22.41$，$p<0.01$）（$F(48,49)=23.97$，$p<0.01$）。Tukey による多重比較も行い，COVID-19 前は「広島県」と「東京都」（$F(48,49)$ 22.55，$p<0.01$），COVID-19 禍では「広島県」と「岡山県」（$F(48,49)=24.11$，$p<0.01$）との間に有意差があることがわかった。また COVID-19 前，COVID-19 禍のすべての学部で出身県の有意な影響が解明された。

3.5 学部関連情報・全学関連情報

さらに学部関連情報・全学関連情報と進学希望の変化との関係について示したものが表 2（COVID-19 前），表 3（COVID-19 禍）となる。表 2 から，COVID-19 前は「志望の気持ちが強くなった」で，学部関連情報を十分に享受し得たときに，オープンキャンパスを通じて，志望の気持ちが肯定的なものになることが明らかとなった。オープンキャンパスが各学

表 2 COVID-19 前の学部・全学関連情報との関係

COVID-19前			
	志望の気持ちが強くなった	変わらない	志望の気持ちが弱くなった
学部関連情報			
教育内容	83% (12,321)	13% (1,982)	4% (618)
就職状況	80% (11,989)	14% (2,032)	6% (900)
入試方法・内容	89% (13,254)	8% (1,232)	3% (435)
取得できる資格の情報	83% (12,311)	13% (1,989)	4% (621)
全学関連情報			
クラブ・サークル活動の状況	16% (2,342)	75% (11,232)	9% (1,347)
奨学金	16% (2,444)	69% (10,312)	15% (2,165)
アルバイト	13% (1,921)	82% (12,222)	5% (778)
学生生活	14% (2,121)	80% (12,001)	6% (799)
住居・住宅情報	15% (2,299)	80% (11,987)	5% (635)

※表の値は「とても得られた」を表示

表 3 COVID-19 禍の学部・全学関連情報との関係

COVID-19禍			
	志望の気持ちが強くなった	変わらない	志望の気持ちが弱くなった
学部関連情報			
教育内容	89% (5,601)	8% (521)	3% (154)
就職状況	90% (5,641)	9% (632)	1% (3)
入試方法・内容	91% (5,699)	8% (498)	1% (79)
取得できる資格の情報	90% (5,645)	8% (472)	2% (159)
全学関連情報			
クラブ・サークル活動の状況	88% (5,511)	8% (491)	4% (274)
奨学金	94% (5,921)	4% (221)	2% (134)
アルバイト	94% (5,920)	3% (219)	3% (137)
学生生活	88% (5,552)	8% (498)	4% (226)
住居・住宅情報	86% (5,376)	13% (801)	1% (99)

※表の値は「とても得られた」を表示

部で企画，実施され，そこに高校生が参加しているため，その進学希望の変化は，学部関連情報を十分享受し得たときに生じているものと考えられる。これに対し「志望の気持ちが強くなった」からわかるように，全学関連情報を得たとしても，志望の気持ちが強固なものとはならないことがわかった。もっと言えば「変わらない」が多い点を鑑みれば，COVID-19 前のオープンキャンパスでは，必要最低限の全学関連情報の発信に留めることが望ましいのかもしれない。

また表 3 から，COVID-19 禍では「志望の気持ちが強くなった」において，学部関連情報を十分に享受し得たとき，オンラインオープンキャンパスを通じて，志望の気持ちが肯定的なものへと変化することがわかった。COVID-19 前と比較して，COVID-19 禍では全体的にその割合が高くなっている。その一方で「志望の気持ちが強くなった」に関して，全学関連情報についても得られたときに，志望の気持ちが強固となることが明らかとなった。大学が取り組んでいる学生募集・入試広報としてオープンキャンパス，大学説明会や，模擬授業（出前授業）があるが，COVID-19 禍においてオンラインでの対応となる中で，クラブ・サークル活動の状況，奨学金，アルバイト，学生生活や，住居・住宅情報といった全学関連情報も十分に得られにくい状況に高校生があったと考えられ，COVID-19 禍においてはそれらの情報も十分に享受することにより，その結果として進学希望の変化に影響を与えたものと想定される。

これを学部系統別にみたものが表 4（COVID-19 前），表 5 （COVID-19 禍）となる。表 4 より，いずれの学部でも COVID-19 前は学部関連情報を得られると「志望の気持ちが強くなった」となることがわかった。しかし全学部において全学関連情報を享受したとしても「志望の気持ちが強くなった」と，志望の気持ちが強固となることには結びつかないことが明らかとなった。これに対して，すべての学部においてCOVID-19 禍でも学部関連情報を得られたときに肯定的な姿勢を示す傾向にあることに加え，全学関連情報についても同様の傾向にあることが解明された。

その上で学部関連情報・全学関連情報と進学希望の変化について分散分析・多重比較を実施した。分析結果から，COVID-19 前にいずれの学部関連情報の効果も有意であることが確認された一方で（F(5・6・4・7,9・7・5・4）=8.21・8.33・7.98・7.88，p＜0.01），全学関連情報に関しては有意な効果はみられなかった（F(5・7・4・8・6, 6・5・8・7・5)=8.33・8.12・8.45・8.78・8.99，n.s.）。また Tukey による多重比較を行い，すべてにおいて「とても得られた」と「全く得られなかった」（F(5・3・4・3,6・7・5・8）=8.33・7.21・8.11・7.20，p＜0.01）との間に有意差があることがわかった。そしてCOVID-19 前の全学部で全学関連情報はいずれも有意な効果は認められなかったが，COVID-19 禍では学部関連情報とともに，全学関連情報も有意な効果があった。

3.6 進学希望変化の規定要因

最後に高校生の進学希望の変化（志望の気持ちが強くなった＝1，それ以外＝0）の規定要因を示したのが表 6（COVID-19 前および COVID-19 禍）となる。表 6 から，COVID-19 前の性別について男性ダミーの有意な影響は認められないことがわかった。また学年に関しては高校生 3 年生ダミーの正の有意な効果が確認されたことから，高校 3 年生であるとオープン

表 4 学部系統別による COVID-19 前の関係

COVID-19前							
	教養系 (1,321)	人文科学系 (1,567)	社会科学系 (1,421)	教育系 (925)	理学系 (2,498)	工学系 (2,567)	保健系 (4,622)
学部関連情報							
教育内容	70% (921)	60% (933)	64% (999)	92% (850)	85% (2,120)	75% (1,932)	87% (3,999)
就職状況	69% (911)	58% (915)	60% (933)	98% (902)	77% (1,922)	71% (1,831)	89% (4,103)
入試方法・内容	72% (945)	60% (935)	66% (940)	78% (723)	76% (1,901)	78% (2,001)	87% (4,001)
取得できる資格の情報	64% (840)	54% (845)	65% (921)	97% (901)	80% (2,001)	78% (1,933)	89% (4,101)
全学関連情報							
クラブ・サークル活動の状況	25% (331)	27% (421)	29% (419)	32% (298)	23% (567)	19% (491)	18% (824)
奨学金	23% (298)	26% (411)	29% (415)	31% (291)	23% (571)	20% (520)	18% (821)
アルバイト	21% (276)	26% (401)	29% (407)	31% (287)	23% (569)	20% (520)	18% (819)
学生生活	21% (271)	399 (25%)	28% (402)	29% (267)	22% (560)	20% (516)	18% (815)
住居・住宅情報	20% (265)	395 (25%)	28% (401)	28% (259)	22% (551)	20% (511)	18% (811)

※表の値は「志望の気持ちが強くなった」を表示

表 5 学部系統別による COVID-19 禍の関係

COVID-19禍							
	教養系 (525)	人文科学系 (698)	社会科学系 (613)	教育系 (456)	理学系 (1,789)	工学系 (798)	保健系 (1,397)
学部関連情報							
教育内容	76% (398)	72% (502)	81% (498)	87% (399)	70% (1,249)	75% (598)	73% (1,021)
就職状況	77% (402)	71% (498)	77% (472)	88% (401)	62% (1,111)	74% (588)	80% (1,111)
入試方法・内容	79% (413)	73% (513)	80% (489)	85% (387)	67% (1,201)	73% (582)	74% (1,032)
取得できる資格の情報	76% (399)	68% (472)	74% (452)	93% (422)	68% (1,222)	75% (599)	80% (1,112)
全学関連情報							
クラブ・サークル活動の状況	77% (403)	75% (525)	75% (462)	87% (398)	67% (1,198)	70% (555)	71% (989)
奨学金	80% (421)	78% (544)	82% (502)	88% (401)	74% (1,321)	79% (634)	87% (1,212)
アルバイト	86% (454)	81% (565)	85% (524)	88% (401)	75% (1,333)	81% (645)	87% (1,211)
学生生活	82% (432)	76% (532)	80% (488)	76% (345)	73% (1,319)	77% (618)	72% (1,001)
住居・住宅情報	76% (401)	74% (518)	79% (482)	70% (321)	73% (1,312)	77% (612)	72% (1,005)

※表の値は「志望の気持ちが強くなった」を表示

キャンパスが影響を与えていると言える。そして志望順位については，正の有意な影響を示しており，オープンキャンパスを通じて，より気持ちが強固なものとなっていることがうかがわれる。さらに出身県についてであるが，広島県ダミーや，広島県以外中国地方ダミーが正の有意な影響を持つことが明らかとなった。このことから COVID-19 前のオープンキャンパスを通じ，広島県という自県内や，近隣県の高校生の進学希望の変化に効果がみられたと言える。また本研究で焦点を当て検討を行う学部関連情報・全学関連情報に関しては，いずれの学部関連情報も正の有意な影響がみられる一方，全学関連情報は有意な効果が認められないことが明らかとなった。

これを学部系統別にみたのが表 7（COVID-19 前およびCOVID-19 禍）となる。表 7 から COVID-19 前は，いずれの学部においても広島県ダミー，広島県以外中国地方ダミーおよび，学部関連情報で正の効果が確認できたが，男性ダミーや，全学関連情報などについては有意な影響が認められなかった。特に人文科学系で高校 3 年生ダミーや，第一志望ダミーにおいて正の効果があることが明らかとなった。H 大学の人文科学系の学部では，他学部と比較し，高校 3 年生

表 6 高校生の進学希望の変化のロジスティック回帰分析

	COVID-19前（N=14,921名） Exp (B)	COVID-19禍（N=6,276名） Exp (B)
男性ダミー	1.12	1.11
高校3年生ダミー	1.14 **	1.14
志望順位	1.28 **	1.13
広島県ダミー	1.24 **	1.22 **
広島県以外中国地方ダミー	1.21 **	-1.21 **
教育内容	1.27 **	1.31 **
就職状況	1.15 **	1.29 **
入試方法・内容	1.29 **	1.28 *
取得できる資格の情報	1.31 **	1.32 *
クラブ・サークル活動の状況	1.13	1.25 *
奨学金	1.12	1.33 **
アルバイト	1.11	1.33 **
学生生活	1.13	1.25 **
住居・住宅情報	1.06	1.18 *
Nagelkerke決定係数	0.38	0.37
有意確率	**	**

※*p＜0.05，**p＜0.01．基準値は「女性ダミー」「高校3年生以外の学年ダミー」「それ以外の都道府県ダミー」

の参加者が多いことに加え，近隣の他大学にはないコースがあるため，第一志望者が多いと考えられる。

また先の表 6 から，COVID-19 禍においても性別に関して男性ダミーの有意な影響は確認されなかった。そして COVID-19 前には有意な効果が明らかとなった学年や志望順位について COVID-19 禍においては高校生 3 年生ダミーおよび，志望順位の有意な効果はみられなくなった。さらに COVID-19 前と同様に COVID-19 禍においても出身県について広島県ダミーが正の有意な効果を持つ一方で，広島県以外中国地方ダミーは負の有意な影響を持ち，すなわちそれ以外の幅広い地域において効果がみられることが明らかとなった。これに加えて本研究で着目する COVID-19 禍における学部関連情報・全学関連情報について，COVID-19 前は学部関連情報のみ有意な効果があることが明らかにされたが，COVID-19 禍においてはいずれの全学関連情報も有意な影響があることが解明された。本研究の仮説は支持された。

そしてこれを学部系統別に示したのが先にみた表 7 となる。表 7 より COVID-19 禍においては，すべての学部において全体と同様に，広島県ダミーが正の有意な影響を持つのに対して，広島県以外中国地方ダミーは負の効果を持つことが確認できた。またいずれの学部関連情報・全学関連情報に関しても有意な効果を与えていることが明らかとなった。その一方で，いずれの学部においても有意な効果がみられなかったのが，男性ダミー，高校 3 年生ダミーや，志望順位であることがわかった。

4 まとめと本研究の限界点

本研究では，H 大学を事例に，COVID-19 前のデータと比較しつつ，COVID-19 禍における高校生の進学希望の変化に与えるオンラインオープンキャンパスの効果を明らかにした。その際には，「全学関連情報」「学部関連情報」がいかに志望の気持ちに影響を及ぼしたのか，着目して検証を実施した。

分析結果から，COVID-19 前は学部関連情報を十分に享受し得たときに高校生の進学希望が変化していた一方で，COVID-19 禍ではこれに全学関連情報も影響を与えていることが明らかとなり，本研究の仮説が支持されることがわかった。2021 年度以降も当面，オンラインでのオープンキャンパスとなる可能性が高いが，その場合，従来では学部に関連した情報を充実される傾向にあったが，全学に関連した情報にかかわるコンテンツをホームページにより盛り込み，アドミッションセンターの教員がオンライン個別相談で情報発信していくことで，オンラインにおいて高校生の志望の気持ちに変化を生じさせると考えられる。

また今一つ分析結果から明らかとなった点として，COVID-19 前は広島県や近隣県の高校生を中心に，オープンキャンパスを通じ，高校生の進学希望の変化に影響を与えていた一方で，COVID-19 禍では幅広い地域の高校生にも，オンラインオープンキャンパスとなったことにより，効果を及ぼしていることが明らかとなった。今後，従来の対面型オープンキャンパスに戻す場合でも，COVID-19 禍のオンラインで実施した経験を生かし，ハイブリッド型オープンキャンパスも検討することが重要である。そうすることで，オープンキャンパスによって，より広範囲の地域の高校生の進学希望の変化に効果を持つようになり，入試広報ツールとしての重要度がより高まると考えられる。

最後に本研究の限界点についてであるが，本研究では進学希望の変化について，オンラインオープンキャンパスに参加して本学への進学を希望する気持ちはどの程度変わりましたか（1. 志望の気持ちが弱くなった，2. 変わらない，3. 志望の気持ちが強くなった）で回答を求めているが，「変わらない」と回答したものの中で，オンラインオープンキャンパス参加当初から志望する気持ちが強く，それ以上に強くなり得ないため，「変わらない」としたものが若干なりとも存在していた可能性がある。今後の研究では，オープンキャンパス参加前・参加後の 2 時点での追跡調査を行うことを通じて，より研究結果の精密化を図っていきたい。

表 7 学部系統別によるロジスティック回帰分析

	COVID-19前						
	教養系（N=1,321名）	人文科学系（N=1,567名）	社会科学系（N=1,421名）	教育系（N=925名）	理学系（N=2,498名）	工学系（N=2,567名）	保健系（N=4,622名）
	Exp (B)	Exp (B)	Exp (B)	Exp (B)	Exp (B)	Exp (B)	標準化係数（β）
男性ダミー	1.09	1.08	1.12	1.11	1.14	1.13	1.12
高校3年生ダミー	1.16 **	1.17 **	1.18 **	1.21 **	1.19 **	1.18 **	1.16 **
志望順位	1.26 **	1.27 **	1.31 *	1.35 **	1.31 **	1.29 **	1.26 *
広島県ダミー	1.22 **	1.22 *	1.22 **	1.22 *	1.22 *	1.22 **	1.22 **
広島県以外中国地方ダミー	1.19 *	1.21 **	1.19 **	1.21 **	1.19 **	1.21 **	1.21 **
教育内容	1.25 *	1.27 **	1.28 **	1.33 **	1.31 **	1.33 **	1.35 **
就職状況	1.21 **	1.25 **	1.27 **	1.32 **	1.29 **	1.31 **	1.33 **
入試方法・内容	1.26 *	1.25 **	1.27 **	1.29 **	1.28 *	1.29 **	1.31 **
取得できる資格の情報	1.22 **	1.23 **	1.25 **	1.37 **	1.32 **	1.32 **	1.35 **
クラブ・サークル活動の状況	1.14	1.13	1.15	1.14	1.14	1.13	1.17
奨学金	1.12	1.11	1.14	1.13	1.13	1.12	1.16
アルバイト	1.11	1.09	1.11	1.11	1.12	1.11	1.14
学生生活	1.13	1.07	1.12	1.09	1.11	1.09	1.12
住居・住宅情報	1.07	1.05	1.11	1.07	1.09	1.08	1.11
Nagelkerke決定係数	0.39	0.37	0.35	0.39	0.36	0.37	0.36
有意確率	**	**	**	**	**	**	**

※*p＜0.05，**p＜0.01．基準値は「女性ダミー」「高校3年生以外の学年ダミー」「それ以外の都道府県ダミー」

	COVID-19禍						
	教養系（N=525名）	人文科学系（N=698名）	社会科学系（N=613名）	教育系（N=456名）	理学系（N=1,789名）	工学系（N=798名）	保健系（N=1,397名）
	Exp (B)	Exp (B)	Exp (B)	Exp (B)	Exp (B)	Exp (B)	Exp (B)
男性ダミー	1.12	1.13	1.15	1.18	1.17	1.17	1.19
高校3年生ダミー	1.11	1.12	1.13	1.16	1.16	1.16	1.18
志望順位	1.13	1.15	1.17	1.17	1.18	1.15	1.16
広島県ダミー	1.23 **	1.25 **	1.27 **	1.28 **	1.26 **	1.25 **	1.26 **
広島県以外中国地方ダミー	-1.22 *	-1.24 *	-1.26 *	-1.27 *	-1.25 *	-1.23 *	-1.24 *
教育内容	1.26 **	1.32 **	1.33 **	1.31 **	1.33 **	1.34 **	1.36 **
就職状況	1.25 **	1.31 **	1.32 **	1.31 **	1.32 **	1.33 **	1.34 **
入試方法・内容	1.23 *	1.29 *	1.31 *	1.34 *	1.33 *	1.31 *	1.32 *
取得できる資格の情報	1.21 *	1.25 *	1.29 *	1.27 *	1.33 *	1.33 *	1.37 *
クラブ・サークル活動の状況	1.28 *	1.24 *	1.27 *	1.26 *	1.29 *	1.29 *	1.19 *
奨学金	1.34 **	1.35 **	1.36 **	1.37 **	1.35 **	1.37 **	1.32 **
アルバイト	1.33 **	1.35 **	1.35 **	1.37 **	1.34 **	1.37 **	1.31 **
学生生活	1.31 **	1.32 **	1.33 **	1.24 **	1.24 **	1.26 **	1.22 **
住居・住宅情報	1.29 *	1.31 *	1.31 *	1.33 *	1.18 *	1.22 *	1.18 *
Nagelkerke決定係数	0.39	0.36	0.37	0.39	0.37	0.35	0.36
有意確率	**	**	**	**	**	**	**

※*p＜0.05，**p＜0.01．基準値は「女性ダミー」「高校3年生以外の学年ダミー」「それ以外の都道府県ダミー」

注

1）2029 年度までの全国における 18 歳人口と大学進学者の推移について（http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2017/09/kihoncyosa-17suikei.html）（2021 年 2 月 8 日閲覧）.

2）H 大学のオンラインオープンキャンパスでは，a:学部紹介で各部局の学部長や，教員による個別相談を通じて，教育内容，就職状況，入試方法・内容や，取得できる資格にかかわる情報発信を行い，b:キャンパスライフでは各担当事務による個別相談によって，クラブ・サークル活動の状況，奨学金，アルバイト，学生生活や，住居・住宅情報の相談を行った。

3）西日本に位置する偏差値 60 以上の大学であり，教養系，人文科学系，社会科学系，教育系，理学系，工学系および，保健系の学部を有する。

参考文献

雨森聡（2016）.「入試広報戦略のありようについて ―入試広報の効果検証を中心に」『大学入試研究 ジャーナル』**26**，111－116.

平尾智隆・大竹奈津子・久保研二・山内一祥（2011）.「ある国立大学における入試広報の効果測定― 志望順位を決定する要因」『大学評価・学位研究』**12**，19－28.

池田光壱・木村拓也・山口恭弘（2013）.「入試広報としての実験講義」『大学入試研究ジャーナル』**23**，227－231.

三好登・望月聡・福井寿雄・西郡大・吉村宰・當山明華・藤井良宜（2019）.「進学希望の変化に与えるオープンキャンパスの効果研究―九州地区国立 4 大学におけるベンチマーキングを通じて」『大学入試研究ジャーナル』**29**，124－131.

永田純一（2011）.「在学生による入試広報活動の取り組み―広報効果と人材育成の観点から」『大学入試研究ジャーナル』**21**，91－96.

進研アド（2017 年 9 月 15 日）.「2029 年度までの全国における 18 歳人口と大学進学者の推移について」http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2017/09/kihoncyosa-17suikei.html（2021 年 2 月 8 日閲覧）.

鈴木敏明・夏目達也・倉本直樹（2003）.「オープンキャンパスと AO 入試」『大学入試研究ジャーナル』13，7－10.

吉村宰（2013）.「新入生の受験校決定理由の特徴と入学時点での『気持ち』および学業成績との関連」『大学入試研究ジャーナル』**23**，63－70.